

スポーツ in はこだて

親と子のスポーツ体験特集

特別研修事業

少子化による社会的な現象によって、スポーツの競技人口は年々減少し、大会の参加者の減少や、出場するため2チームを1チームに編成するなど、各競技団体はこのような問題の対策に苦慮している。

体育協会は、対策の一つとして競技団体と連携し、スポーツに対して親に理解を深め、子どもに関心を高めるべく、下記の加盟団体と協力し「親と子のスポーツ体験」を開催した。

加盟団体（協力団体）

- ・ラグビーフットボール協会(函館ラグビースクール)
- ・軟式野球連盟(北海道サンアグロ、函館ドルフィンズ)
- ・ソフトテニス連盟(一般選手)
- ・ソフトボール協会(北大ソフトボール部)

期 日 平成25年10月6日(日)

会 場 根崎公園ラグビー場

3歳から小学6年生までの児童130名、親70名のスポーツ体験。スポーツの経験の有無を問わず、参加者を4グループに分けて実施、指導は各協会（連盟）役員が担当し、全員がそれぞれの競技種目を体験した。

ユニホーム姿の現役の選手や、スクールの子どもたちも指導に協力した。参加した親や子どもたちは、楽しく、十分に満足することが出来た一日であった。



◎10歳の女の子（水泳）

ボールをうまく打ったり、投げたり、受けたりすることが良く出来た。バットを振ることは水泳とまったく違う。今日は褒めてくれたのですごく楽しかった。

◎12歳の男の子（野球）

ラグビーで味方からボールを受け取って、トライするのが、とても楽しかった。野球では力みすぎて普段より飛ばなかった、「気持ちを楽しんで打つように」とアドバイスを受けたら打てるようになってよかった。

思った以上にいろいろな種目が出来て大変楽しかった。

◎スポーツ担当記者

「親と子のスポーツ体験」たいへん素晴らしい企画ですね。このような事業、もっと早くから実施していればと思いました。



◎33歳の母親

全体として良い感じで、良い経験をした。3世代で参加してよかった。その他サッカーなども・・・、広報は学校にもしてほしい。

◎40代の夫婦と子ども二人

3歳の男の子と5歳の女の子で参加、3歳の男の子は、札幌で日本ハムの試合を見学してから野球が大好きになり今回は是非、参加したいと来ました。



取材を終えて

会場がラグビー場、芝のグラウンドで天候に恵まれ好条件でした。4種目の各協会・連盟の協力のもと、会場設営を含み、うまく会場を分割し、各種目のスポーツ体験をすることが出来たことの喜びをたくさんの子どもたちが話してくれた。

野球は、バッティングでラグビー場でスタンドに向かっての配置はスタンドに打ち込むことで、子どもたちにホームランを打った実感を味わわせることができ、とても良かった。ラグビーのトライシーンでは、トライに向かって走ってくる子どもに守備のスタッフが二人、走ってくる子どもの勢いに突き飛ばされて毎回倒れるなど、子どもたち一人ひとりにトライを立派に成功させる喜びを味わわせる場を意図的に作ったことは、素晴らしい場面で、子どもたちは大喜びでした。

協会のスタッフや、現役の選手が指導にあたって子どもたちの年齢やレベルに合わせて、優しく、親切丁寧に、褒め言葉と共に、やり遂げた充実感といった喜びを与え、参加した子どもたちが、みんな大満足していた。指導したスタッフの皆さんに心から御礼を申し上げます。

今後は、体育協会に所属している、皆さんの協力を得て、親子で多くの種目のスポーツの楽しさと喜びを味わう場を設ける必要性を強く感じた。

函館市体育協会理事 絹野重治

好評で終了した「二宮清純氏」の講演会

特別研修事業

10月18日(金)、二宮清純氏を招聘し「人を育てるリーダー」と題し、講演会を開催した。二宮清純氏はスポーツジャーナリストとして、国内外で幅広い取材活動と豊富な経験から、スポーツ界を熟知している。二宮清純氏は指導者が選手を活躍するまでの過程を具体例を挙げ紹介した内容は説得力のある話であった。

指導者は、選手に対して「指導者の背中で選手を育てること」ことが大切であると熱く語った。

講演は、視聴者にとって有意義な80分であった。

「二宮清純氏スポーツ講演会」アンケート結果

◎内容についてよかったと思いますか

- ・良かった 213
- ・どちらかと言えばよかった 16
- ・普通 3
- ・良くなかった 0

◎このような企画は今後も続けてほしい

- ・続けてほしい 240
- ・必要ない 1

講演会を聞いた

40代の女性(現在、バレーボールの監督)

「人を育てるリーダー」をタイトルにして、スポーツの指導者として、あるべき姿を、個々具体的な例を挙げて、とてもわかりやすく、お話をいただき、ものすごく感動しています。

お話の中からスポーツの指導者は「技術を育てること」一本だけではなく、最終的には「技術を含め、人間を育てること」というお話には共感しました。今後のスポーツ指導や監督のあり方に役に立ち、大いに生かしたいと思います。

指導者としてスポーツ活動を進めるにあたって「準備を細かく、しっかりさせること」と「選手との確認を確実にすること」さらには「指導者の背中で選手を育てること」などについて、具体例に基づいたお話は、とても説得力があり、納得のいくものでした。

二宮清純氏から直接お話を聞くことができ、とても良かったです。

函館市体育協会 加盟競技団体 紹介

函館アイスホッケー協会 「函館アイスホッケー少年団の現況」

函館アイスホッケー少年団は、発足してから30年が経過しました。その間、さまざまな大会に出場し時期は苦小牧勢の強豪を脅かす好成績を収めましたが、近年は苦戦が続いています。しかしながら、室蘭市や安平町での大会では、函館ならではの「全員ホッケー」を貫き1点を取ることにを目標に挑んでいます。

また、シーズンも後半の2月には青函対抗戦で毎年、青森市の少年団とは白熱した試合が展開されています。



2011年には、チーム名を函館ライトニングと改めユニフォームも新調しました。寒さに負けない気持ちと、チームプレーから仲間を思いやる気持ちを大切に元気いっぴいのプレーを見せてくれる選手、保護者、指導者が一体となったチームです。

函館地区バスケットボール協会 80周年

函館地区バスケットボール協会が80周年を向え、11月2日、五島軒で記念祝賀会を開催、協会の発展に貢献した役員の特功、役員功勞、指導者功勞表彰を行った。

小野沢猛史会長は、スポーツを通して地域に貢献すること、競技団体として優秀な選手を育てることなど、今後課せられた課題に、役員と会員の力を集結したいと決意を語った。

第16回綱引き大会開催

期日 12月7日(土)
場所 市民体育館

市民参加型の事業、綱引き大会には多数の参加がありました。各加盟団の皆さん観戦に来てください。
※注 体育館の駐車場は工事の為一部使用できません。